
災害医療研修

(本間正人、大橋教良・編 災害医療、東京、へるす出版、2009、p.29-40)

2012年3月9日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

●はじめに

救急医療の現場で高度な医療を提供するためには、さまざまな職種の人々がチームとして活動する必要がある。円滑な活動のためには共通の理論や言語は不可欠であり、それを習得するための標準的な研修プログラムが開発され、多くの方が受講している。災害医療の場合も例外ではない。本項では各研修会の概要と特徴について述べる。

● 災害医療従事者研修会

阪神・淡路大震災では、災害拠点病院の整備と災害医療に関する研修・訓練の実施が課題として挙げられた。そのため、国立病院機構災害医療センターでは1995年以降、基幹災害拠点病院が実施する災害医療従事者研修会のモデルとして研修会を実施している。現在までに約830チーム(2008年)の災害拠点病院が受講修了している。

本研修会の目的は、災害拠点病院に勤務する医師・看護師・コメディカル・事務官が災害時における災害拠点病院の役割を理解し、災害時に任務が遂行できるようにすることである。研修会では、地震の発生するメカニズム、国の対応、病院の地震への備え、傷病者受け入れ計画、トリアージの理論と実習、医療救護班派遣、特殊災害(バイオ・原子力災害)など、内容は多岐にわたる。2008年度より指導者育成に重点がおかれるように本研修会の開催目的を方針転換した。

●日本 DMAT 隊員養成研修会

DMAT(Disaster Medical Assistance Team)は専門的な訓練を受けた機動性を有する災害派遣医療チームで、大地震などの被災地や災害現場にいち早く駆けつけ、救命治療を行う。DMATは、都道府県が指定するDMAT指定病院に所属し、かつDMAT隊員の資格認定を受けた医師・看護師・調整員より構成される。2004年8月に東京DMATが発足したのに引き続き、日本の標準的なDMAT研修を行うべく2005年度より本研修会が開始された。現在は、国立病院機構災害医療センターと兵庫県災害医療センター(神戸市)でそれぞれ年10回の研修会が開催されている。現在までに334施設、3,264名(2008年11月末現在)の隊員が誕生している。

本研修の内容は、近隣災害、遠隔地災害に加え、広域医療搬送の活動が可能となるよう座学、実技、シミュレーション、実動訓練がある。消防の連携と閉鎖空間での医療体験ならびに広域医療搬送時の航空搬送拠点(SCU; staging care unit)の実動訓練を行っている。

●NBC 災害・テロ対策研修会

国際的なテロ活動が活発化し、日本においてもテロ対策の強化が必要となった。そのような

状況下で 2006 年度より本研修会が始まった。NBC テロ災害の専門家、日本中毒情報センター、放射線医学総合研究所、国立感染症研究所の協力で開催されている。

本コースの目的は、NBC テロ災害に対応し、その傷病者を受け入れることができる医療機関を各都道府県に整備することである。受講者の対応能力の向上のみならず、医療機関の体制整備が究極の目的となる。受講生は医師・看護師・調整員で、日本 DMAT 隊員の資格を有することが原則とされている。研修会では、NBC テロ災害の概要の理解、除染法、サーバイメーターの使用法などを学習する。

●MIMMS (Major Incident Medical Management and Support)

英国の Advanced Life Support Group が提供する集団災害事故に対する救急医療対応を教育するプログラムである。災害現場で活動する医療者を対象とした 3 日間のアドバンスコース、災害現場でトリアージを行う職種を対象とした 1 日のプロバイダーコース、院内受け入れ態勢のための Hospital MIMMS がある。日本では、2005 年 12 月から本研修会を日本語でコースを開催している。本研修会プログラムの理論は日本 DMAT をはじめ、他の多くの災害研修プログラムの基本となっている。

本コースは、大災害時の医療にかかわる警察・消防・救急・医療・ボランティア・行政などの各部門の役割と責任分担・組織体系・連携方法・装備などを組織横断的に講義、訓練する研修カリキュラムである。災害対応の基本コンセプトを CSCATTT (Command & Control, Safety, Communication, Assessment, Triage, Treatment, Transport) としている。

●NDLS (National Disaster Life Support)

NDLS はアメリカ同時多発テロ事件を契機に、2003 年米国医師会とジョージア大学ほか 3 つの大学が中心となり、標準的な災害教育コースを設立した。NDLS は 3 つのコースに分かれており、医療従事者以外を対象とした 4 時間のコアコース、医療従事者を対象とした 1 日のベーシックコース、さらにベーシックコースを完了した者を対象とした 2 日のアドバンスコースから成る。

本コースは、自然災害に比べてテロ災害に重心がおかれている。災害対応の原則を D-I-S-A-S-T-E-R Paradigm (Detection, Incident Command, Safety & Security, Assess Hazards, Support, Triage & Treatment, Evacuation, Recovery) としている。トリアージは MASS トリアージ法 (Move・Assess・Sort・Send) として整理している。これは、移動できるもの、指示動作に従って手足を動かすことができるものを評価排除し、残った患者を二次トリアージの後に優先的に搬送する方法である。日本では、2008 年 3 月に東京医科歯科大学で開催された。今後定期的開催される運びとなっている。

●まとめ

以上、代表的かつ標準的な災害研修プログラムとして災害医療従事者研修会、日本 DMAT 隊員養成研修会、NBC 災害・テロ対策研修会、MIMMS、NDLS を紹介した。